

■令和元年度男女共同参画に関する市民意識調査の集計結果要点

<調査の概要>

- 6月5日～6月19日を調査期間として、市内在住の18歳以上の男女2,000人に調査票を配布
- 有効回収数833票、回収率41.65%（平成27年度（前回調査）：860票、43.0%）
- ・回答者の年齢・性別について、例年と大きな差は見られない。

<調査結果の概要>

「男女の地位の平等感について」では、「平等である」との割合が8項目中7項目で30%台以下となっているが、「学校教育の場で」は50%を超えており、この結果は前回調査と大きく変わっていない。

「家庭生活等に関する考え方について」では、女性が家事など家庭を中心にすべきであるという考え方は、いずれの項目でも前回調査より減少しているが、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について」では、依然家事・育児・介護などの平均時間の男女間の格差が埋まらない現状となっている。

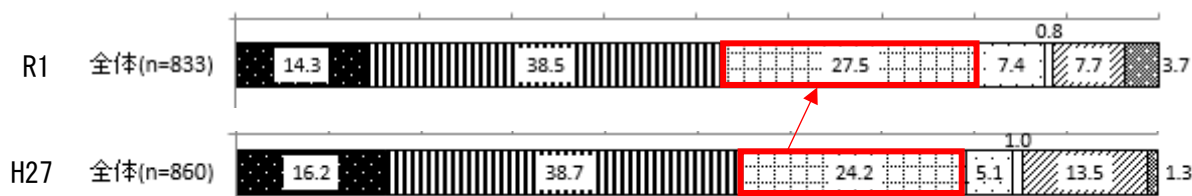
「女性の社会参画について」では、女性が仕事を持ち続ける方がよいという割合が増え、「男女の人権について」では、DV被害者のうち相談をする人の割合が増えている。

<前回調査と変動があった項目の比較>

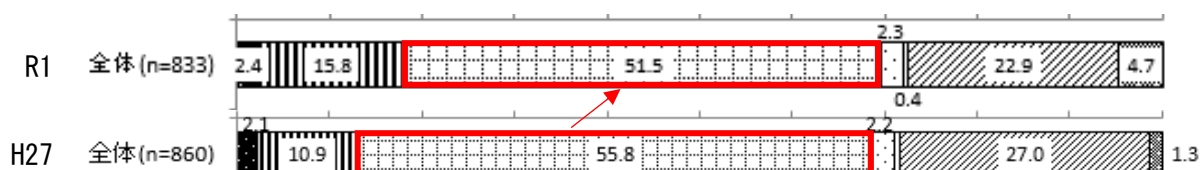
- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない

【1. 男女の地位の平等について】

- 「職場の中で」平等になっていると思う人の割合が3.3%増加（10, 11 ページ）

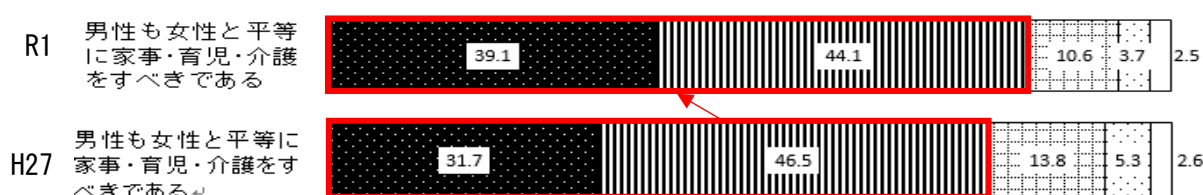


- 「学校教育の場で」平等になっていると思う人の割合が4.3%減少（12, 13 ページ）

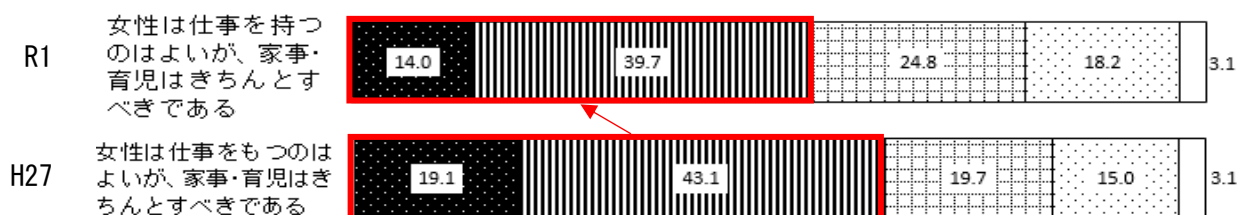


【2. 家庭生活等に関する考え方について】

- 「男性も女性と平等に家事をすべきである」という考え方に『そう思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、以下同）』が5.0%増加（28, 29 ページ）

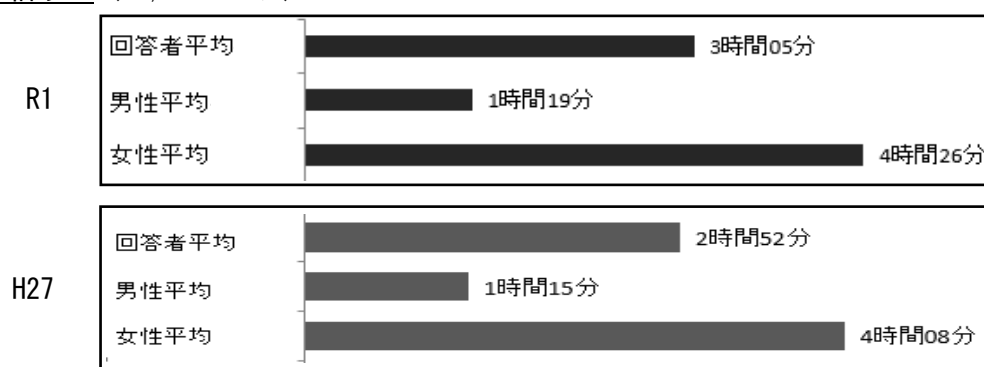


●「女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである」という考え方に『そう思う』が8.5%減少（32, 33 ページ）

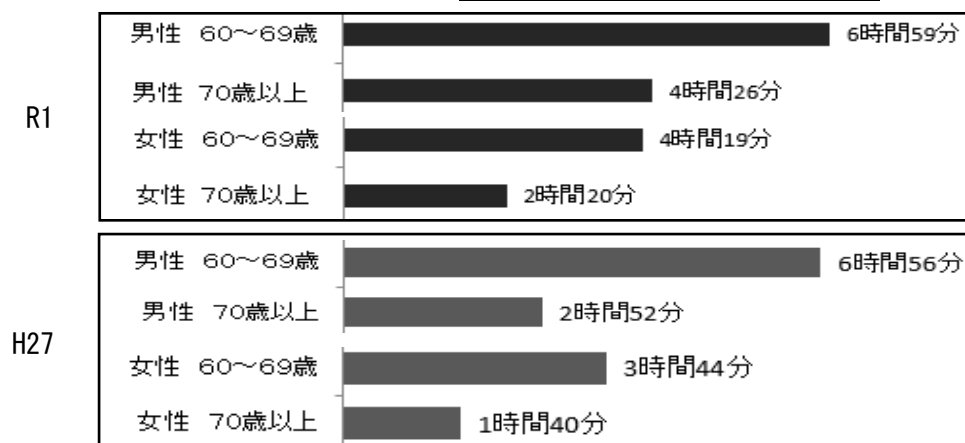


【3. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について】

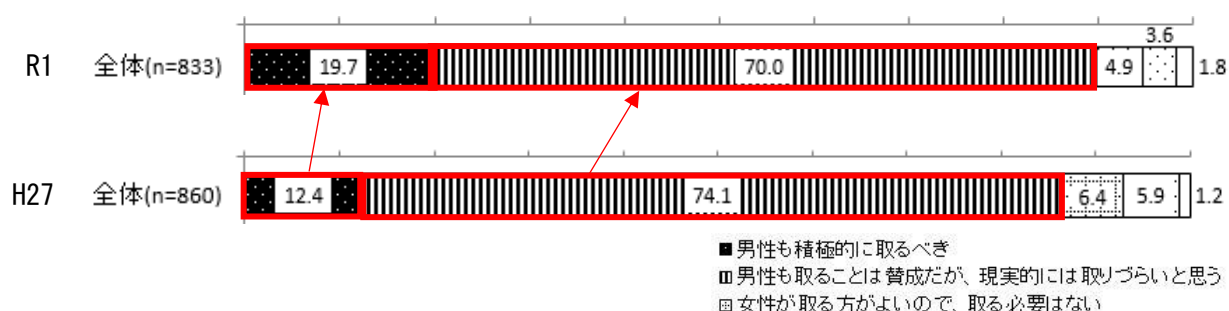
●「家事・育児・介護等に従事する時間」は、男性が4分増加、女性が18分増加し、いまだ男女の差は3倍以上（36, 37 ページ）



●「収入を得る仕事に使う時間」は、男女ともに高年齢層において増加（38, 39 ページ）

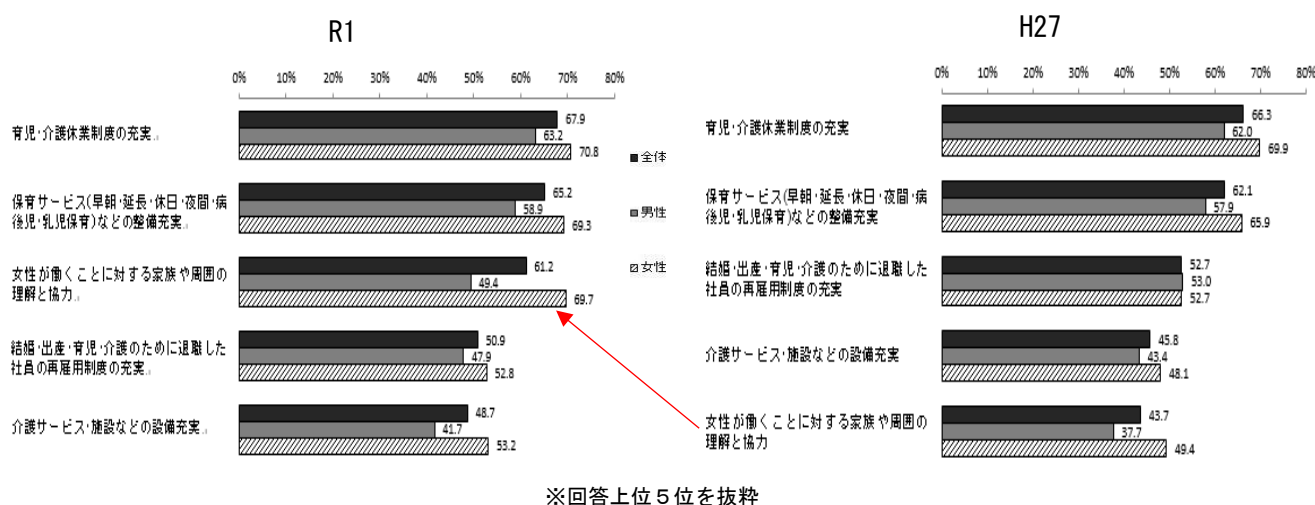


●男性の育児休業について、「男性も積極的に取るべき」が7.3%増加、「男性も取ることは賛成だが、現実的に取りづらいと思う」が4.1%減少（48, 49 ページ）



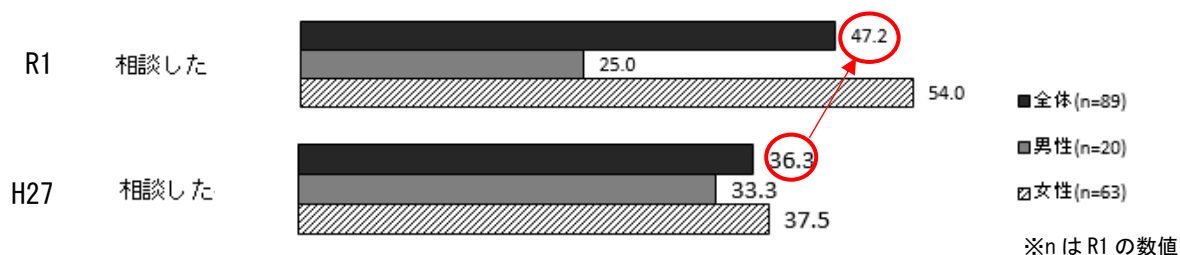
【4. 女性の社会参画について】

●女性が働き続けるために必要なことは、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」の回答割合が増加（56, 57 ページ）



【5. 男女の人権について】

●DV被害経験がある人のうち、DV被害について誰かに「相談した」の割合が10.9%増加（60 ページ）



【6. 男女共同参画社会に向けた法制度等について】

●男女共同参画に関する言葉の認知度について、『内容まで知っている』が「ジェンダー」で11.7%増加、「ワーク・ライフ・バランス」で4.3%増加（64-66 ページ）

